

	課題分析	授業改善策	改善状況
国語	多くの生徒が、話し合い活動を通して、授業に対して主体的・対話的で深い学びを意識して授業を受けていることが分かった。一方で、習った知識や技能を普段の生活に活用できるようにするのが課題となる。	習った知識や技能を普段の生活に活用できている生徒を増やすために、他教科と関連させた教科横断的な授業を展開したり、日常生活との関連性を考えさせたりする場面を増やしていく。	
社会	多くの生徒が授業に対して意欲的であった。その理由として ICT 機器の活用やタブレットを使っていることが考えられる。更に意欲を高めるために ICT 機器をどう効果的に活用していくかが課題である。	話し合い活動や自分の考えをまとめる為の Google アプリが数種類あるので、授業内の場面ごとに、教育効果がより高いアプリを選択していき、更に意欲を高めていきたい。	
数学	多くの生徒が、ねらいを理解して見通しをもって授業に取り組んでいる。グループ活動を通して、理解できたときの達成感が意欲につながっている。一方で、日常生活に数学を生かすことが課題として挙げられる。	それぞれの単元で、日常生活に関連した題材を扱い、数学の意義や有用性を理解させ、身に付けさせる。また、身近な生活の場面と関連させた発問の仕方を工夫して、生徒自身に考えさせる時間を設ける。	
理科	多くの生徒が、授業に対して興味・関心をもって授業に取り組んでいる。ICT 機器の活用や対話的な学習活動を多く取り入れたからだと考える。しかし、学習内容と日常生活との結び付けが課題として浮き彫りになった。	身近なものから学習内容に関わることに触れていくことや、関連する事象や出来事を盛り込み多角的な内容にする。また、ICT 機器を活用し、情報処理に割く時間を減らし現象に着目しやすい工夫をしていく。	
音楽	多くの生徒が、授業に対して興味・関心をもって、集中して授業に取り組んでいる。習った知識や技能を普段の生活に活用できていない生徒が3割程度いた。	普段の生活の中で音楽を聴く機会は多い。たくさんの種類の楽曲や楽器に触れさせ、生活の中で音楽を聴く際に、習った知識と結び付けられるような授業づくりを行う。	
美術	多くの生徒が、意欲的に制作を行うことができている。こまめに机間巡視を行うことや、書画カメラや撮影した動画を参考にすることが理由と考えられる。自ら質問し、理解できないことなど解決し高めていこうとする意識は薄い。	今後も課題の説明を行う際、ICT 機器も活用しつつ、個々の作品に沿った形での丁寧な指導を心がけたい。積極的に質問できるような雰囲気作りを心がけ、ただ制作するだけではなく創意工夫できるようにする。	
保健体育	男女共習を実施して初年度だが、各学年ともに8割程度の生徒が意欲的に授業に参加している。課題は「発言、考える機会・実生活で活用できる技能への認識の不足」が挙げられる。	運動量の確保も念頭に置きながら、授業内での「主体的・対話的で深い学び」ができる場面をより一層展開し、授業と実生活とがリンクできる話題の提供をしていく。	
技術家庭	技家ともに、生徒に生活の中での課題を振り返ったり、考えさせたりする場面を設定することが難しかった。説明をより簡潔にし、思考場面を増やす工夫を行っていく。実習の授業では生徒の技能の差があるため、個別指導と全体指導のバランスを取る工夫が必要である。	座学の授業では、生徒自身に考えさせ、主体的な活動を取り入れていく。また、日常生活と関連させた思考場面を設ける。実習の授業では、班編成を工夫する、個別の声かけや補習を行うなどの対応を続けていく。	

外国語	<p>学年によって多少の差はあるものの、アンケートから大多数の生徒が授業に対して満足し、意欲的に取り組んでいることがうかがわれる。しかし、日常生活の中でその知識や技能が生かされているかという点では十分ではない。今後は、4技能をバランスよく向上させる、どの分野においても抵抗感を取り除くことが課題としてあげられる。</p>	<p>今後は、授業の中でタブレットなどの IT 機器を効果的に活用し、表現活動や言語知識の活動などを中心に更なるバランスの取れた 4 技能向上を目指していきたい。</p>	
-----	--	---	--